

# 下野市立古山小学校

## 1 学校課題

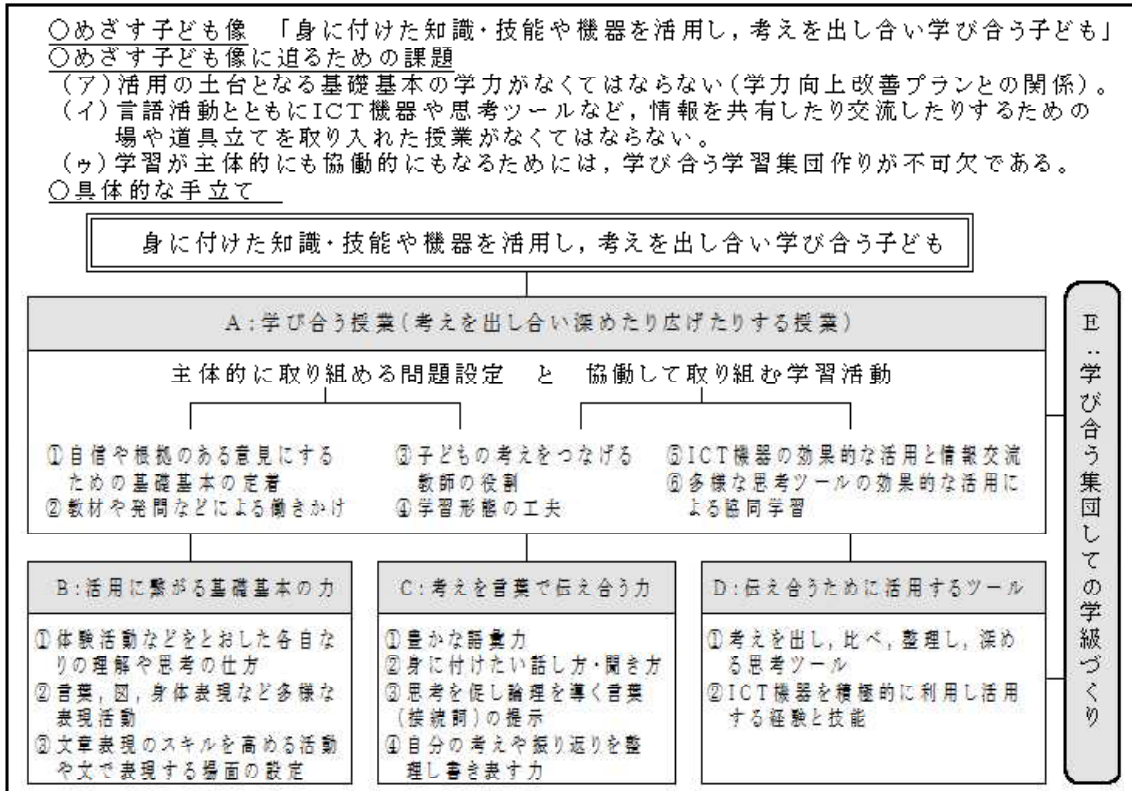
表現・コミュニケーション能力の育成をめざして  
～主体的・協働的に学ぶ授業づくりを通して(1)～



## 2 本年度の研究について

学習指導要領の改訂も視野入れ、これまでの学校課題研修の成果を生かしつつアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に取り組もうと考え、上記テーマでの課題研修に取り組んだ。

### (1) めざす子ども像と具体策



### (2) 研修の進め方

- 具体策E「学び合う集団としての学級づくり」については、『学級力向上プロジェクト』(田中博之編著)を参考に、3年生以上の各学級で学級力アンケートを定期的の実施し、児童と共有しながら学習集団としての学級の実態把握や目標設定を行う。
- 学力向上プロジェクト(国語・算数・理科)、小教研中央大会(生活・総合的な学習の時間)、要請訪問(道徳)などの授業研究会や校内研修での授業研修を通して具体策A～Eの実践研修を行う。一人一授業の授業研究とし、主体的で実践を伴った学校課題研修を進める。
- 具体策の柱の一つであるICT機器の活用のために、各種情報機器の整備導入を平行して行う。

## 3 研究内容

### (1) 1年生活「じぶんでできるよ」

栃小教研生活・総合的な学習の時間部会の公開授業として実施した単元である。生活科の学習がB①【体験活動をおした各自なりの理解や思考の仕方】を元に展開されるのは当然のことだが、研究単元ではさらなる手立てとして〈活動と交流を繰り返し設定する〉よう活動計画に改善した。その際に、授業の中で情報を交流し共に活動する友達との活動だけでなく、家庭での家族とかかわり合い思いを伝え合う体験活動も「協働的な学び」の一つと考えた。本単元では、家の人



の笑顔を探したり家の人に喜んでもらおうとおつかいやお手伝いをしたりする活動と、一人一人の気づきを交流する場とを繰り返していくことで、家族への思いを深め、家族の中での自分の役割や成長を実感したり表現したりすることができた。

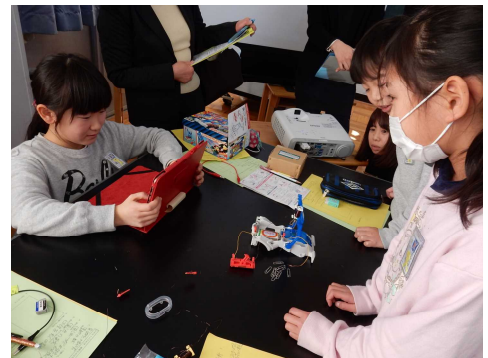
## (2) 4年算数「面積」

学力向上改善プランの中で、活用・表現力に焦点を当てた授業研修を行った。右の場面は、ペアで複合図形の面積の求め方を工夫する活動の中で見られた多様な求め方（考え方）や図示の仕方（表現）を教師がピックアップしてタブレット端末で記録し、黒板に貼り付けた移動式電子黒板に映し出して全体に提示しているところである。タブレット上で補助線を引くなどしながら、他の児童に対して自分たちの考えを説明し考え方を共有し学び合っている場面である。拡大して示された図と児童自らの説明や補足により、情報交流を分かりやすく行うことができた。ICT機器の活用は、大きな映像として提示できるという視覚的な効果とともに、個やグループでの活動の中で作業用紙に書き込んだ考えを素早く提示し共有できるという即時性という点でも、考えを共有し練り合う際に有効であった。



## (3) 5年理科「電磁石のはたらき」

どうすれば磁力の強い電磁石ができるかを4人一組のグループで話し合い、仮説と検証実験の計画を立てている授業場面である。本年度導入したタブレット端末だが、理科や総合的な学習の時間などでの活用機会を何度も設定し、児童自身はその機能をよく使いこなせていた。右は、自分たちの考えた仮説と実験を伝えるために必要な情報を映像化し、他のグループに示す準備をしている様子で、この後、各グループの発表と比較検討を行った。導入初年度の今年は、タブレットで画像や動画を保存し提示資料として活用するという利用の仕方がほとんどだったが、今後は、変化や比較の様子が分かるように映像を編集したり図表やグラフに表したりする思考のツールとしてのタブレットの活用も考えたいと感じさせる授業だった。



## 4 成果と課題

- 多彩な教科や研究内容で行われた授業研修を実施したが、協働的に活動する児童の姿がどの学級でも見られ、本校の児童の学習能力として定着していることが見て取れた。これまで継続して行ってきた学校課題研修の蓄積は、アクティブ・ラーニングの視点から見ても生かせるだけの成果を上げてきたといえる。指導要領の改訂に伴い新しい教育観・指導観も提示されているが、これまでの取組の上に新たな取組を取り込んでいけばよいと改めて感じた。
- ICT機器の充実と授業への導入、機器を活用した児童の活動は、今年度飛躍的に進み成果を上げた。教師よりもむしろ児童の方が、与えられた機器の利用や活用の工夫に素早く対応しているようである。機器が活用できる教科指導の場をよりたくさん見出して活用の機会を設けたい。それとともに、どんなねらいをもった学習活動での活用なのかという主たる目的を明確にした活用でなければならないという課題も感じた。児童が主体になり、機器の活用が進み、授業の形態が変化していくのに応じて、指導内容についての理解や指導観、教材研究など授業者である私たちの意図や理解が伴わなくてはならない。授業力向上の研修に今後とも努めたい。
- 学級力アンケートの結果を児童とともに共有し自学級の現状や目指すべき姿について話し合い学習の場での目指すべき姿を児童が主体的にイメージするよう働きかけたり、定期的なアンケートの結果が変容したりしてきたという学級もあった。学習のきまりや学習訓練が教師から一方的に与えられ受動的な態度で学習するのではなく、アクティブな（主体的な）学びへ向かう意欲・態度や協働的な関係性のある児童へと育てていきたいが、その際に学級づくりは重要である。その手立てとしての学級力アンケートの活用を続けていきたい。
- 本年度の具体策の中には位置付けがなかったが、家庭や地域の教育力との連携は、アクティブ・ラーニングの視点からも学力向上の視点からも必須の手立てであり、今年度は各学年で意図的な連携の機会を今まで以上に設けて実践してきたり、情報提供を行ったりしてきた。今後も継続していきたい。